

令和6年度

学 力 向 上 プ ラ ン
【後期】

上尾市立西小学校

目 次

上尾市立西小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」	1
1 学力調査結果の概要	
(1) 上尾市立小・中学校学力調査（令和5年12月実施） 【2～6年：国語、算数】	2
(2) 全国学力・学習状況調査（令和6年4月実施） 【6年：国語、算数】	7
(3) 埼玉県学力・学習状況調査（令和6年4・5月実施） 【4～6年：国語、算数】	8
2 学力向上を図る取組	
(1) 各教科の授業における取組	10
(2) 教育活動全体を通じた取組 本校の特色ある取組 家庭教育との連携	14

上尾市立西小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

素直で 明るく かしこい 西小っ子の育成
 ○よく考えよく学ぶ子
 ○なかよく助け合う子
 ○明るく健康な子

学校課題研究主題

「英語でも、楽しく意欲的に
 伝え合う、西小っ子の育成」

学力・学習状況調査の結果

R 6 全国学力・学習状況調査	R 6 埼玉県学力・学習状況調査	R 5 上尾市立小・中学校学力調査
<ul style="list-style-type: none"> 全体では、全国平均と比較して国語で6.3ポイント、算数で7.6ポイント上回っている。 国語は全ての領域で全国平均を上回り、中でも「我が国の言語文化に関する事項」は+11.1ポイントと大きく上回っている。 算数も全ての領域で全国平均を上回り、「数と計算」は10ポイントと大きく上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力レベルの平均では、5・6年ともに国語は伸びが見られず、算数は5年生で1レベルの伸びが見られる反面、6年生で2レベル減少している。 国語、算数ともに、5年生は県平均を下回り、4年生は県平均を上回っている。 学習方略や非認知能力は、6年生が県平均を全ての項目で上回っているが、前年度からの変化量で見ると多くの項目でマイナスとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は、国語がどの学年も概ね全国値と同等、算数は5年生以外は下回っている。 経年比較で見ると、国語は昨年とほぼ同値か、数値が上がっている学年が多い反面、6年生は4.3ポイント下がっている。算数は昨年より下がっている学年が多く、今後は学校全体の課題として重点的に取り組んでいく必要がある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ol style="list-style-type: none"> 一人あたりの言語活動を多くすることで得られる基礎的、基本的な知識・技能。(全般) コミュニケーションの体験を基に、言語や文化に慣れ親しむことで得られる知識・技能。(外国語等) 	<ol style="list-style-type: none"> 問題を発見し、プログラミング的思考を活用して結果を予測し、記述して実行する思考力・判断力・表現力等。(全般) できるだけ多くの活動を体験させ、伝え合う力を養うことで身に付く思考力・判断力・表現力等。(外国語等) 	<ol style="list-style-type: none"> 課題解決に主体的に取り組み、最後まで思考錯誤を続けて、学習の成果を他者と共有しながら、お互いに高めようとする態度。(全般) 相手が理解しやすい話し方を考えるなど、相手に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度。(外国語等)

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ol style="list-style-type: none"> 友達と学び合う中で、学習意欲を持続し、技能の定着を図る授業展開。(全般) 実際に英語を用いた意味のある言語活動を通して、繰り返し体験的に理解させることで技能の定着を図る授業展開。(外国語等) 	<ol style="list-style-type: none"> I C Tを活用し、児童一人一人が自分の強みをより高め、思考の過程を大切に授業展開。(全般) 自分のことや身近で簡単な事柄について、相手に配慮し、自分の考えや気持ちが伝わるよう工夫して伝えることのできる活動を重視した授業展開。(外国語等) 	<ol style="list-style-type: none"> 思考の過程を意識しつつ、学び直す態度を大事にし、友達同士で支え合う授業展開。(全般) 思考・判断を伴う受信・発信のやりとりから知識・技能を身に付け、その活動から自信や主体的に学習に取り組む態度が養成されるような授業展開の工夫。(外国語等)

本校の特色ある取組

- H R T主導による外国語等授業の展開。
- 5つの「しっかり」（挨拶・見る・聞く・考える・伝える）を基盤とした児童への基本指導。
- 2つの学校図書館を効果的に活用した読書活動の充実。

家庭教育との連携

- 中学校の定期テストに合わせた家庭学習強化週間の実施。
- チーム学校、地域とともにある学校づくりの推進のための、積極的な情報発信。

1 学力調査結果の概要

(1) 上尾市立小・中学校学力調査(令和5年12月実施)

2年(令和6年度3年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		△	○教科の正答率は全国平均とほぼ同じで、目標値よりも4ポイント上回っている。
基礎・活用	基礎	△	○漢字の読み書きがよくできている。 ●内容別に見ると、文章を「書くこと」が低くなっている。 ●漢字の筆順が身に付いていない。
	活用	▼	
観点	知識・技能	△	要因分析 ・日頃の授業では、文章を書ける児童が多く見られるが、初めてのテストで、時間配分がうまくできなかったと考えられる。
	思考・判断・表現	▼	
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
国語科の重点目標	主体的に学習に取り組み、問題意識をもって課題を解決できるようにするために、意見を交流する場を多く設定する。 自分の考えを書くことができるようにするために、語彙や文の構成、漢字に関心をもてるようにする。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	ことばの学しゅう	漢字の正しい筆順を理解している。	・書き順を練習する機会を増やし、習得を目指す。 ・漢字の書き順を意識して、学習するようにしていく。
②	文しょうを書く	自分の思いや考えが明確になるように文を書く。	・主語、述語、誤字、脱字、文章の書き方を身に付けさせる。

2年(令和6年度3年)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○目標値は上回ったが、全国平均より下回っている。 ○かけ算九九、時刻と時間は全国平均よりも上回っている。 ●内容別では、ひき算、長さ、かさが全国平均よりも下回っている。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析 ・見直しが足りず、計算ミスが多い。 ・問題に正対できていない。 ・長さやかさの概念をうまくイメージすることができていない。
	思考・判断・表現	△	
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
算数科の重点目標	体験を通して知識の定着を図る。基礎的・基本的な計算力の定着を図る。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	長さ・かさ	長さやかさの単位と活用について理解している。	・体験を通して知識の定着を図る。
②	ひき算	引き算の仕方と引き算の活用場面について理解している。	・反復練習や確かめ算で定着を図る。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

3年(令和6年度4年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		△	○全体的に目標値を上回っている。基礎が、1～2ポイント上回っている。	
基礎・活用	基礎	△	○漢字の読み取りはよくできている。 ●内容別に見ると、聞き取りと読み取りが低くなっている。	
	活用	△		
観点	知識・技能	▼	要因分析	
	思考・判断・表現	△	・普段の授業を、主体的に取り組んでいるため、基礎的基本的な力が身に付いていると考えられる。	
	主体的に学習に取り組む態度	△		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したもの。		△	目標値を上回る
国語科の重点目標	一人当たりの言語活動を多くすることで、得られる基礎的基本的な知識技能の習得。 課題解決に主体的に取り組む、最後まで試行錯誤を続ける。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	話合いの内容を聞き取る。	話の中心を明確にするための話し手の工夫をとらえている。	・朝のスピーチ等で、話を聞いて質問する活動を取り入れている。	
②	説明文の内容を読み取る。	叙述を基に文章の内容をとらえている。情報と情報との関係について理解し中心となる語や文を見つけて要約している。	・日頃の授業の読み取りで中心となる語や文を押さえたり、叙述に基づいて読み取りをさせたりする。	

3年(令和6年度4年)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		▼	○数の概念は、平均より大きく上回っている。 ●ひき算・わり算が平均より大きく下回っている。	
基礎・活用	基礎	▼		
	活用	▼		
観点	知識・技能	▼	要因分析	
	思考・判断・表現	▼	・繰り下がりのひき算やわり算の仕方が定着しきれていなかった。 ・解答の見直しが足りない。	
	主体的に学習に取り組む態度	▼		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したもの。		△	目標値を上回る
算数科の重点目標	一人当たりの言語活動を多くすることで、得られる基礎的基本的な知識技能の習得。 課題解決に主体的に取り組む、最後まで試行錯誤を続ける。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	わり算	2桁÷1桁＝1桁の計算ができる。	・さらに定着を図るために、繰り返し練習する。	
②	ひき算	4桁-3桁＝3桁の計算ができる。	・さらに定着を図るために、繰り返し練習する。	

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

4年(令和6年度5年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		△	○全体的に目標値を上回っている。特に物語の内容を読み取ることに おいて、9.2ポイント上回っていてよくできている。	
基礎・活用	基礎	△	●内容別に見ると、説明文の読み取りが低く、8.8ポイント下回っている。	
	活用	△		
観点	知識・技能	△	要因分析	
	思考・判断・表現	▼	・普段の読書傾向から、説明的な、科学読み物等に慣れ親しんでいない実態と、調べ学習においてじっくり資料と向き合えていない根気のなさが伺える。	
	主体的に学習に取り組む態度	▼		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものを。		△	目標値を上回る
国語科の重点目標	・これまで同様、基礎的な学習に丁寧に取り組ませる。 ・幅広い読書を勧める。		≡	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	話合いの内容を聞き取る。	話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている。	日常の連絡において、聞く姿勢や聞き方に触れ、しっかり聞き取れたかどうかの確認を行う。	
②	説明文の内容を読み取る。	情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している。	説明文のみならず、物語文においても、キーワードを抽出させ、言葉に関する意識を高める。	

4年(令和6年度5年)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		▼	○大きな数と計算のきまりにおいては目標値と同程度であった。 ●それ以外の内容においてはほとんどを下回っており、特に角の大きさについては10.3ポイント下回っている。	
基礎・活用	基礎	▼		
	活用	▼		
観点	知識・技能	▼	要因分析	
	思考・判断・表現	▼	・数を基に解決しようという根本的な考えが欠落していて、目の前の課題を終えることに終始している。正誤に関係なくとりあえずやればよいと思っている節がある。	
	主体的に学習に取り組む態度	▼		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものを。		△	目標値を上回る
算数科の重点目標	・間違えた問題はやり直す習慣を身につけさせる。 ・できない問題をそのままにしない大切さを伝える。		≡	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	わり算	3桁÷1桁=2桁の計算ができる。	・ドリルやプリント等で反復練習を行うとともに、しっかりと確認をさせる。	
②	角の大きさ	分度器の中に示された角の大きさの読み取り方を理解している。	・ドリルやプリント等で反復練習を行うとともに、しっかりと確認をさせる。	

評価について

△	目標値を上回る
≡	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

5年(令和6年度6年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		△	○全体として、どの項目も目標値を上回っている。 ●領域別「我が国の言語事項に関する事項」が0.6ポイント上回っている。	
基礎・活用	基礎	△	要因分析	
	活用	△		
観点	知識・技能	△	・自国の伝統文化等への関心の低さが予想される。	
	思考・判断・表現	△		
	主体的に学習に取り組む態度	△		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したもの。		△	目標値を上回る
国語科の重点目標	・読書量を増やすことで、語彙量の増加を図る。 ・日常的に文章を書く機会を増やし、文字に親しむことで、日本語の成り立ち等に関心をもてるようにする。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
			重点的に取り組む学習内容	
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	言葉の学習	適用修飾語について理解している。	文章を書く機会を増やし、書いた文を校正する習慣をつけ、よりよい表現を考えられるようにしていく。	
②	文章を書く	段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。	作文を書く練習により、段落構成の意味を理解させる。	

5年(令和6年度6年)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		△	○多くの項目で、目標値と同程度か、わずかな上回りが見られた。 ●領域別では「変化と関係」、内容別では「小数のかけ算・わり算」「体積」「単位量当たりの大きさ、比例」が目標値を下回っている。	
基礎・活用	基礎	△	要因分析	
	活用	▼		
観点	知識・技能	△	・整数のかけ算・わり算のつまづきが、引き継がれている。 ・2量の数量関係から割合を考えることに困難を感じている児童が多くいる。	
	思考・判断・表現	▼		
	主体的に学習に取り組む態度	≒		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したもの。		△	目標値を上回る
算数科の重点目標	・計算する機会を増やしたり、時間を意識して計算したりさせる。 ・「1あたりの大きさ」を意識させるために、数直線図をかくて立式する習慣をつけさせていく。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
			課題に対する手立て	
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	分数と小数	整数÷整数の商を分数で表すことができる。	分数と整数、小数の関係を数直線等を利用して、視覚的に理解させる。	
②	単位量あたりの大きさ、比例	1人あたりのたのみの数やたみ1枚あたりの人数を求めて、どちらの部屋が混んでいるのかを説明している。	数字だけで判断(考え)させるのではなく、式を立てた根拠を数直線図などで説明させる機会を増やす。	

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

6年(令和6年度中学校1年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		△	○多くの項目で、目標値を上回っている。 ●領域別「我が国の言語文化に関する事項」が11ポイント目標値を下回っている。	
基礎・活用	基礎	△		
	活用	△		
観点	知識・技能	≒	要因分析	
	思考・判断・表現	△	・自国の伝統文化等への関心の低さが予想される。	
	主体的に学習に取り組む態度	▼		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したもの。		△	目標値を上回る
国語科の重点目標	・読書量を増やし、語彙数の増加を図る。 ・書く活動を多く取り入れていく。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	言葉の学習	敬語について理解し、正しく使っている。	話し合い活動を増やし、正しい言葉遣いや敬語を使う機会を増やし理解させる。	
②	文章を書く	指定された長さで文章を書いている。	作文を書く機会を増やし、練習により、段落構成の意味を理解させる。	

6年(令和6年度中学校1年)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)	
教科全体		▼	○領域別「図形」が目標値を3.6ポイント上回っている。 ●領域別「変化と関係」が12.5ポイント下回っている。	
基礎・活用	基礎	▼		
	活用	≒		
観点	知識・技能	▼	要因分析	
	思考・判断・表現	△	・分数のかけ算・わり算のつまずきが多い。 ・計算に関しての個人差が大きい。	
	主体的に学習に取り組む態度	≒		
補足	【目標値】学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したもの。		△	目標値を上回る
算数科の重点目標	・繰り返し計算する機会を増やす。		≒	目標値と同程度
			▼	目標値を下回る
重点的に取り組む学習内容				
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て	
①	比と比の値	比の値について理解している。	問題を解くだけでなく、説明する機会を増やす。	
②	分数のかけ算・わり算	真分数÷帯分数(約分2回)の計算ができる。	分数のかけ算・わり算の練習問題に、繰り返し取り組みせ、理解を図る。	

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

(2) 全国学力・学習状況調査(令和6年4月実施)

国語

考察(問題と結果の分析)

・文中における主語と述語との関係を捉えることに課題があり、問題の正答率は全国及び県平均を大きく下回っている。
・学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う問題や、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする問題については、正答率が県や全国平均を上回っているが、無解答率が5.7%と高く、理解度が二極化傾向にあるといえる。

課題の要因分析

・自分の思いや考えを正確に伝える上で、主語と述語との関係に気を付けて文を整えることに課題がある。書いた文章を読み返す際、言葉の使い方を確認する習慣を身に付けさせたり、音読しながら読み返しをさせたりするなど、さまざまな学習場面で、主語と述語が適切な文となっているかを意識させることができるようにする。
・理解度の二極化に関しては、国語科に限らず、全ての教科において見方・考え方を働かせた授業を実践し、主体的で対話的な学びを実現することで、学力の底上げを図っていく。

算数

考察(問題と結果の分析)

・折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述するということに課題がある。正答率は全国及び県平均をわずかに上回っているが、45.7%と決して高いとは言えず、無解答率も4.3%とやや高くなっている。

課題の要因分析

・「国語」の課題とも関連して、主語と述語との関係に気を付けて文を整える力が十分に身に付いていない児童が多く、自分の思いや考えを正確に伝えられないことが、要因として挙げられる。授業では主体的・対話的な学びを実現することで、解答だけでなく、そこに至るプロセスや根拠に重点を置き、自分の考えを言葉や数などを用いて、しっかりとまとめることのできる能力の定着を図っていく。

(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和6年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

国語

学年	学力レベル				学習方略						非認知能力	
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感		
4年	校内	5-A		R6数値	3.8	3.9	3.7	4.1	4.0	4.0		
	県	5-B		伸び +or-								
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルは、県平均をやや上回っている。 ・学習方略や非認知能力の数値と、学力との結びつきを見たとき、学校平均を下回る学力の児童のうち半数は、学習方略や非認知能力の数値が県平均を下回る項目が多い傾向にある。中でも、プランニング方略と作業方略の数値の低い児童が低学力であるという傾向が見られ、計画的に学習に取り組むことや、大切なことを理解するために繰り返し取り組むことに苦手意識があり、学習に対する関心や意欲が低いことが、学力の伸び悩みの要因の一つであると考えられる。 ・全体として多くの学習方略や非認知能力の項目で、県平均を上回っている。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略や非認知能力は概ね県平均を上回っているが、柔軟的方略の数値は県平均である。このことから、自分のおかれている現状を見つめ、様々な選択肢の中から方法を選択するような授業スタイルの工夫を図る等、学習への意欲を高め、学力の向上へとつなげていきたい。 ・指示語の役割について理解する問題や、文の構成を理解する問題、辞書の正しい使い方を理解する問題では、県平均を大きく下回っている。「読む」「書く」を中心に、様々な場面で指示語や文中の主語・述語を意識した活動を取り入れるとともに、辞書を身近なツールとして、国語に限らずいつでも活用できるような環境を整えていく。 											
5年	校内	6-B	0	6-B	R6数値	3.6	3.6	3.4	4.0	4.0	3.6	4.0
	県	6-B	1	6-C	伸び +or-	0.0	0.0	-0.1	0.2	-0.1	-0.2	0.2
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルは昨年度からの伸びは見られない。学習方略については、認知的方略は県平均を上回っているが、それ以外は同等か下回っている。非認知能力については、自己効力感が県平均と同等であり、自制心は上回っている。昨年度との伸びの比較では、認知的方略と、自制心で0.2ポイントの伸びが見られる。 ・学習方略や非認知能力の数値と、学力との結びつきを見たとき、昨年度からの学力の伸びがマイナス数値の児童の6割は、学習方略や非認知能力の数値も前年度から低下している項目が多い傾向にある。中でも、柔軟的方略やプランニング方略の数値が低い児童に学力低下の傾向が見られ、計画的に学習に取り組むことや、状況に合わせて柔軟に学習方法を選択することに苦手意識があり、学習に対する関心や意欲が低いことが、学力の伸び悩みの要因の一つであると考えられる。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略の中では特に認知的方略で、非認知能力の中では自制心で、昨年度からの伸びが見られる。このことから、振り返りの活動を充実させ、学習内容を自分の言葉で整理し、理解につなげてきた活動に一定の効果が表れたと考えられる。また、自分の感情をある程度コントロールすることができるようになり、学習への意欲が向上したことも数値から伺える。学習方略の自己効力感については、前年度との比較では減少傾向にあるので、児童の実態把握と、個に応じた課題の設定等、自分ではできないという自信や期待を高められるような授業スタイルの工夫・改善に努めていく。 ・指示語の役割について理解する問題では、県平均を大きく下回っている。「読む」「書く」を中心に、様々な場面で指示語を意識した活動を取り入れる。指示語の役割を理解することについては、正解者は認知的方略が高い傾向にあるので、苦手な学習内容に対して児童が質問しやすい環境を整える等、学習環境の整備を進めていく。 											
6年	校内	7-B	0	7-B	R6数値	3.8	3.8	3.5	4.0	3.8	3.7	3.2
	県	7-C	0	7-C	伸び +or-	0.0	0.1	0.0	0.0	-0.4	-0.1	-0.1
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率では県平均を4.4ポイント上回っているが、学力レベルでは昨年度からの伸びは見られない。学習方略・非認知能力については、ほぼ全ての項目で県平均を上回っている。昨年度との伸びの比較では、プランニング方略で0.1ポイントの伸びが見られるが、その他の項目については伸びは見られず、努力調整方略は0.4ポイント下がっている。 ・学習方略や非認知能力の数値と、学力との結びつきを見たとき、昨年度からの学力の伸びがマイナス数値の児童の8割は、学習方略や非認知能力の数値も前年度から低下している項目が多い傾向にある。中でも、柔軟的方略や作業方略の数値が低い児童に学力低下の傾向が見られ、計画的に学習に取り組むことや、作業を中心に学習を進める活動に苦手意識があり、学習に対する関心や意欲が低いことが、学力の伸び悩みの要因の一つであると考えられる。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略の中ではプランニング方略で、昨年度からの伸びが見られる。このことから、学力が低下傾向にある児童には苦手意識があるが、学年全体としては、ゴールを意識して計画的に学習に取り組む習慣が定着してきている、と見ることができる。学習方略の努力調整方略については、前年度と比較して大きく減少しているため、分からないところも諦めずに継続して学習に取り組むために、個に応じた指導に重点を置いた授業スタイルの工夫・改善に努めていく。 ・文の意味が明確になるよう推敲する力を問う問題では、県平均を大きく下回っている。「書くこと」を中心に、友達との対話的活動などを通して文章をより良くする視点を見つけ、友達とともに表現することの楽しさや奥深さを味わいながら、より良い文章を表現できる児童の育成に努めるなど、指導方法の工夫と改善に努めていく。 											

(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和6年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

算数

学年	学力レベル				学習方略						非認知能力	
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル	R6数値	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感		
4年	校内	4-A			3.8	3.9	3.7	4.1	4.0	4.0		
	県	4-A		伸び +or-								
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルは、県平均をわずかに上回っている。 ・学習方略や非認知能力の数値と、学力との結びつきを見たとき、学校平均を下回る学力の児童のうち半数は、学習方略や非認知能力の数値が県平均を下回る項目が多い傾向にある。中でも、プランニング方略と作業方略の数値の低い児童が低学力であるという傾向が見られ、計画的に学習に取り組むことや、大切なことを理解するために繰り返し取り組むことに苦手意識があり、学習に対する関心や意欲が低いことが、学力の伸び悩みの要因の一つであると考えられる。 ・全体として多くの学習方略や非認知能力の項目で、県平均を上回っている。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略や非認知能力は概ね県平均を上回っているが、柔軟的方略の数値は県平均である。このことから、自分のおかれている現状を見つめ、様々な選択肢の中から方法を選択するような授業スタイルの工夫を図る等、学習への意欲を高め、学力の向上へとつなげていきたい。 ・角の大きさについて理解する問題や、コンパスを用いてかいた模様から、コンパスの針の位置の見当をつける問題は、県平均を大きく下回っている。三角定規やコンパスの操作的活動を充実させたり、生活体験を学習内容と結びつけたりすることで興味や関心を高め、理解の深まりへとつながる指導を心がけていく。 											
5年	校内	5-B	1	5-C	R6数値	3.6	3.6	3.4	4.0	4.0	3.6	4.0
	県	5-B	1	5-C	伸び +or-	0.0	0.0	-0.1	0.2	-0.1	-0.2	0.2
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルは昨年度から1段階上昇している。学習方略については、認知的方略は県平均を上回っているが、それ以外は同等か下回っている。非認知能力については、自己効力感が県平均と同等であり、自制心は上回っている。昨年度との伸びの比較では、認知的方略と、自制心で0.2ポイントの伸びが見られる。 ・学習方略や非認知能力の数値と、学力との結びつきを見たとき、昨年度からの学力の伸びがマイナス数値の児童の6割は、学習方略や非認知能力の数値も前年度から低下している項目が多い傾向にある。中でも、柔軟的方略やプランニング方略の数値が低い児童に学力低下の傾向が見られ、計画的に学習に取り組むことや、状況に合わせて柔軟に学習方法を選択することに苦手意識があり、学習に対する関心や意欲が低いことが、学力の伸び悩みの要因の一つであると考えられる。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略の中では特に認知的方略で、非認知能力の中では自制心で、昨年度からの伸びが見られる。このことから、振り返りの活動を充実させ、学習内容を自分の言葉で整理し、理解につなげてきた活動に一定の効果が表れたと考えられる。また、自分の感情をある程度コントロールすることができるようになり、学習への意欲が向上したことも数値から伺える。学習方略の自己効力感については、前年度との比較では減少傾向にあるので、児童の実態把握と、個に応じた問題の出題等、自分ではできるという自信や期待を高められるような授業スタイルの工夫・改善に努めていく。 ・三角定規の性質をもとに角度を求める問題は、県平均を大きく下回っている。三角定規を使った操作的活動を充実させたり、生活体験を学習内容と結びつけたりすることで興味や関心を高め、理解の深まりへとつながる指導を心がけていく。 											
6年	校内	6-B	-2	7-C	R6数値	3.8	3.8	3.5	4.0	3.8	3.7	3.2
	県	6-B	1	6-C	伸び +or-	0.0	0.1	0.0	0.0	-0.4	-0.1	-0.1
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率では県平均を3.6ポイント上回っているが、学力レベルでは昨年度からの伸びは-2と、伸びが見られない。学習方略・非認知能力については、ほぼ全ての項目で県平均を上回っている。昨年度との伸びの比較では、プランニング方略で0.1ポイントの伸びが見られるが、その他の項目については伸びは見られず、努力調整方略は0.4ポイント下がっている。 ・学習方略や非認知能力の数値と、学力との結びつきを見たとき、昨年度からの学力の伸びがマイナス数値の児童の8割は、学習方略や非認知能力の数値も前年度から低下している項目が多い傾向にある。中でも、プランニング方略や作業方略の数値が低い児童に学力低下の傾向が見られ、計画的に学習に取り組むことや、作業を中心に学習を進める活動に苦手意識があり、学習に対する関心や意欲が低いことが、学力の伸び悩みの要因の一つであると考えられる。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略の中ではプランニング方略で、昨年度からの伸びが見られる。このことから、学力が低下傾向にある児童には苦手意識があるが、学年全体としては、ゴールを意識して計画的に学習に取り組む習慣が定着してきていると見ることができる。学習方略の努力調整方略については、前年度と比較して大きく減少しているので、分からないところも諦めずに継続して学習に取り組むために、少人数指導やチーム・ティーチングなど、個に応じた指導に重点を置いた授業スタイルの工夫・改善に努めていく。 ・小数の除法での余りの意味を理解し、余りを求める問題では、県平均を大きく下回っている。余りの小数点の位置に注意を払うとともに、余りが表す大きさを考えさせ、余りは除数より小さいことや、(被除数) = (除数) × (商) + (余り)の式に当てはめて、商、除数、余りの大きさの関係性を捉えるなど、指導事項の要点を意識した指導に努めていく。 											

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一人あたりの言語活動を多くすることで得られる基礎的、基本的な知識・技能。(全般) ②コミュニケーションの体験を基に、言語や文化に慣れ親しむことで得られる知識・技能。(外国語等)	③問題を発見し、プログラミング的思考を活用して結果を予測し、記述して実行する思考力・判断力・表現力等。(全般) ④できるだけ多くの活動を体験させ、伝え合う力を養うことで身に付く思考力・判断力・表現力等。(外国語等)	⑤課題解決に主体的に取り組み、最後まで思考錯誤を続けて、学習の成果を他者と共有しながら、お互いに高めようとする態度。(全般) ⑥相手が理解しやすい話し方を考えるなど、相手に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度。(外国語等)



教科等	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ③ ⑤	①視写・聴写能力を一文字から文節ごとにできるようにする。 ③はじめ・中・終わりの文の構成やかぎ括弧・漢字・片仮名の使い方を反復指導し、文章を書く力や読み取る力の向上を図る。 ⑤児童同士の意見の交流を行い、友達のを考えを生かして自分の考えを書く場を設定する。	
算数	① ③	①具体物の活用や身近な事例をグラフに表す等、体験を通して知識を定着させる。 ③解答を導き出した方法や理由について説明させる。	
生活	③ ⑤	③国語の学習を生かし、探検して気が付いたことを知らせたり、できるようになったことを分かるようにまとめたりする。 ⑤グループで探検に出かけ、友達と協力しながら、計画に沿って地域の場所を調べる活動に取り組みさせる。	
音楽	⑤	⑤楽しく音楽と関わりながら、生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣の定着を図るために、曲に合わせて体を動かしながら拍の流れや曲の気分を感じ取り、楽しく歌ったり聴いたりする活動に取り組みさせる。	
図画工作	⑤	⑤造形表現活動の快さや楽しさを経験させ、表現への意欲を高めるために、イメージしたものを描き加えて楽しむ活動や、偶然にできた形から想像して、描いたり、作ったりして楽しむ活動に取り組みさせる。	
体育	⑤	⑤様々な器具等を使い、動きを試しながら自分の体をいろいろな動かすことができるようにする力を身に付けるために、固定施設を使って自分の身体をいろいろな動かす活動に取り組みさせる。	
英語活動	②	②英語で進んで友達とあいさつをしたり、習ってきた物の名前を使って話したりして、楽しみながら英語に慣れ親しもうとする態度を養うために、歌や踊り、ゲームを通して、友達と積極的に関わり合い、遊びながら英語活動に自然に慣れ親しむことができるような活動に取り組みさせる。	
特別の教科 道徳	⑤	⑤自立心や自律性を持ち、善悪を判断し、してはならないこと、社会生活上のきまりを守ろうとする態度を養うために、役割演技や体験的な学習を取り入れ、きまりを守ることのよさや大切さ、善悪を判断して適切な行動を取るることの大切さについて考えさせる。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組 (中学年)

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一人あたりの言語活動を多くすることで得られる基礎的、基本的な知識・技能。(全般) ②コミュニケーションの体験を基に、言語や文化に慣れ親しむことで得られる知識・技能。(外国語等)	③問題を発見し、プログラミング的思考を活用して結果を予測し、記述して実行する思考力・判断力・表現力等。(全般) ④できるだけ多くの活動を体験させ、伝え合う力を養うことで身に付く思考力・判断力・表現力等。(外国語等)	⑤課題解決に主体的に取り組み、最後まで思考錯誤を続けて、学習の成果を他者と共有しながら、お互いに高めようとする態度。(全般) ⑥相手が理解しやすい話し方を考えるなど、相手に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度。(外国語等)



教科等	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ⑤	①視写・聴写能力を文節から文ごとに高めつつ、単語でメモすることを習慣化させる。 ⑤話し合う課題を明確にして意識的に話を聞き、それを書いて表現する場を設定する。	
社会	① ③ ⑤	①地図や資料を見る機会の充実を図る。 ③資料から読み取ったことをもとに、感想等を交えて自分の考えを表現させる。 ⑤課題を追求する方法を提示する。	
算数	① ⑤	①既習と新しい学習の関連付けや、日常の事例をもとにした反復練習を実践し、理解の定着を図る。 ⑤考えを整理して表現する力を高めるため、自力解決方法を友達と伝え合う活動を取り入れる。	
理科	③ ⑤	③観察や実験の結果をもとに意見交流を図る。 ⑤実験や観察に加え、写真や映像資料を積極的に活用し、児童の主体的な学習のための授業展開を工夫する。 ⑤見通しをもった観察、実験、ものづくり等を実践し、結果を整理し考えたことを図や文を使って表現させる。	
音楽	⑤	⑤進んで音楽に関わりながら、生活を明るく潤いのあるものにする態度を養い、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるために、様々なリズム表現や旋律の特徴を感じ取ったり、地域に伝わる音楽に親しんだりしながら、楽器や声、音への興味・関心を広げる活動に取り組ませる。	
図画工作	①	①造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養うために、つくりたい内容に合わせて材料や用具を扱ったり、手順や方法を確かめながら表したりする活動に取り組ませる。	
体育	⑤	⑤チームで作戦を生かしてゲームを楽しませ、友達と関わり合いながら、いろいろな動きをできるようにする力を身に付けるために、作戦を生かして得点につなげる活動や、用具(ボール)などを用いてのびのびと運動する活動に取り組ませる。	
外国語活動	②	②「聞くこと」「話すこと」の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成するために、児童が英語や外国の文化に触れ、興味をもてる機会をつくるとともに、ALTや友達に対し積極的に英語を用いてコミュニケーションをとることのできる活動に取り組ませる。	
特別の教科 道徳	⑤	⑤他者を思いやる心もち、身近な人々と協力して助け合う態度や、集団や社会のきまりを守ろうとする態度を養うために、自らを振り返り成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりできるように話合いの時間を充実させ、他者のよさを認めるとともに、きまりを守ることの意義について考えさせる。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組 (高学年)

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一人あたりの言語活動を多くすることで得られる基礎的、基本的な知識・技能。(全般) ②コミュニケーションの体験を基に、言語や文化に慣れ親しむことで得られる知識・技能。(外国語等)	③問題を発見し、プログラミング的思考を活用して結果を予測し、記述して実行する思考力・判断力・表現力等。(全般) ④できるだけ多くの活動を体験させ、伝え合う力を養うことで身に付く思考力・判断力・表現力等。(外国語等)	⑤課題解決に主体的に取り組み、最後まで思考錯誤を続けて、学習の成果を他者と共有しながら、お互いに高めようとする態度。(全般) ⑥相手が理解しやすい話し方を考えるなど、相手に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度。(外国語等)



教科等	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ③ ⑤	①視写・聴写能力を文節から文ごとに高めつつ、工夫してメモすることの習慣化を図る。 ③作文指導で学んだ文法の活用や、物語文の学習で関係する多くの本に触れる等、学びの活用場面を設定する。 ⑤友達との対話活動により、話す力・聞く力を向上させる。	
社会	③ ⑤	③適切に資料を分析するため、資料を読み取る視点を提示する。 ③地図帳やICT端末を活用し、位置や空間的な広がり、環境条件等に着目して学びを実現する。 ⑤児童の気付きや疑問からの課題解決型学習を実践する。	
算数	① ③	①文章問題や図形・グラフの読み取り等、他教科と関連させ教科横断的に取り組む。 ①既習と新しい学習の関連付けや、日常の事例をもとにした反復練習を実践し、理解の定着を図る。 ③筋道立てて説明する経験を重ね、論理的思考力の定着を図る。	
理科	③ ⑤	③ICT端末を活用し、実験や観察の結果を基に考えたことや分かったことを論理的にまとめさせる。 ⑤身近な自然事象から問題を設定し、主体的に学習に取り組めるようにする。 ⑤友達と協力して問題解決を進める学習展開の工夫を図る。	
音楽	⑤	⑤主体的に音楽に関わりながら、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度を養い、表現したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるために、音の重なりや色々な音色を感じ取ったり、詩と音楽の関わりを味わったりしながら、日本をはじめ様々な音楽への興味・関心を深める活動に取り組ませる。	
図画工作	③	③自分らしい表現を追求したり、発見したりする力を身に付けさせるために、一人一人が感じたことを大切に、見付けた対象の形や色の特徴を思いのままに表すことや、形や色の構成、組み合わせなどを試しながら、自分が表現したいものを追求する活動に取り組ませる。	
家庭	⑤	⑤生活を見つめ、改善するためにできることを増やしていく力を身に付けるために、計画を立てて実行する活動や生活で使えるものを計画に沿って製作する活動、学んだことや身に付けたことから工夫して、生活に生かす活動等に取り組ませる。	
体育	⑤	⑤課題達成のために、互いに技のポイントを教え合ったり簡単にできる場を使って練習したりできるようにする力を身に付けるために、場の設定を工夫したり、友達と協力し合ったりする活動に取り組ませる。	
外国語科	②	②「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の言語活動を通して、コミュニケーションの基礎となる資質・能力を育成するために、児童が目的・場面・状況に応じて英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりすることのできる活動に取り組ませる。	

特別の教科 道徳	⑤	⑤生活の充実に努めようとする態度や、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに他国を尊重する態度を養うために、問題解決的な学習や友達と議論させる活動を取り入れ、児童自らが道徳的価値を実現するための課題や目標、道徳性を養うことのよさや意義について考える活動に取り組ませる。	
----------	---	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組

○HRT主導による外国語等授業の展開

・学校課題研究主題である「英語でも、楽しく意欲的に伝え合う、西小っ子の育成」を目指し、HRT主導による外国語等授業の展開に向け、指導者を招聘する等、研修内容の充実を図る。

○5つの「しっかり」（挨拶・見る・聞く・考える・伝える）を基盤とした児童への基本指導

・「しっかりあいさつ、しっかり見る、しっかり聞く、しっかり考える、しっかり伝える」という5つの「しっかり」を児童が意識し、定着が図られるように、学級活動や生活朝会、終業式等で振り返りの場面を設ける。
・よい取組について称賛し、全校へ紹介することで、さらなる定着を図っていく。

○2つの学校図書館を効果的に活用した読書活動の充実

・朝読書を充実させる。担任も一緒に読書に取り組むことで、学校全体として読書を推進する一体感を醸成する。
・読書月間の取組や、図書館支援員等による読み聞かせ活動を充実させる。
・学校応援団を活用した読み聞かせ活動を充実させる。
・学校図書館貸出冊数2万冊超えを目指す。

家庭教育との連携

○西中学校区小中一貫教育の推進

・西中学校定期テスト期間を「家庭学習強化週間」とし、保護者の理解と協力の下、家庭学習の取組を啓発していく。
・小中一貫教育の一環として実施し、「家庭学習強化週間は家庭で学習」という意識を児童にもたせることで、中一ギャップの解消につなげていく。
・西中学校区の目指す児童生徒像を設定し、9年間を見据えた「小中一貫教育」の取組を進める。

○チーム学校、地域とともにある学校づくりの推進のための、積極的な情報発信

・チーム学校、地域とともにある学校づくりを推進するため、積極的に情報を発信するとともに、PTA・おやじの会を含む学校応援団をはじめ、保護者・地域・幼保中・関係機関との連携に取り組む。